

平成 30 年度 学校経営方針

校長 小杉 洋一

I 教育目標と目指す学校像

学びを高める子ども
－喜んで登校し、楽しく学べる見附第二小学校－

II 学校経営方針

1 子どもが通ってよかったと思える学校

見附第二小学校は、豊かな自然や少人数のよさを生かす教育に伝統的に取り組んできた。こうした伝統を継承しつつ、現在の子どもの実態を見つめ、当該年度の重点を設定し、子どもの力を育んでいく。

30年度の重点は、「粘り強く取り組み、自分を高める子ども」である。この重点をフィルターとして、一つ一つの教育活動を改善していく。具体的には、以下のことに取り組んでいく。

(1) 確かな学力～基礎基本を身につけ、進んで活用する子どもの育成～

ア 基礎基本の定着を図る取組

- 練習時間を確保する漢字計算タイムの設定
- 家庭学習カードの活用
- 読書指導の充実

イ 主体性や活用力を高める取組

- 課題、まとめ、振り返りのある授業
- じっくり考えられる活用・発展問題の工夫

(2) 豊かな心～自分と友達を大切にする子どもの育成～

ア 社会性を育む取組

- 生命尊重の心、努力する心等を育む道徳授業
- 子どもに問題解決させる学級活動
- 委員会による希望参加型のイベント

イ 地域に貢献する取組

- ふるさと学習の充実（本明川、杉沢の森、人々の生活）
- 子どものアイディアを生かす栽培活動

(3) 健やかな心身～自分の心と体を鍛える子どもの育成～

ア 望ましい生活習慣や食習慣を育む取組

- 生活習慣強調期間の設定
- カードや面談による個別指導
- 家庭との連携を図る便りの発行

イ 体力向上の取組

- 運動量を確保した体育授業
- 杉の子タイムの工夫

2 保護者が通わせてよかったと思える学校

わが子が力を付け、成長していく。それが一人一人の保護者の喜びである。従って、まずは、Iで述べた教育活動を充実させていく。さらに、学校と保護者との信頼関係を築くために、以下のことに取り組んでいく。

(1) 子どもにかけられる願いの共有

面談等を通して、「こんな子どもに育てほしい」という子どもにかけられる願いを学校と保護者とで共有し、教育・子育てに取り組んでいく

(2) 緊密な情報交換

学校生活において、子どもをとらえるアンテナを高くし、電話、家庭訪問等により、学校での事実を確実に伝える。また、家庭での事実についても提供してもらう。

(3) 保護者の声への傾聴

保護者からの学校への期待や要望等をしっかり受け止め、教育活動を改善していくエネルギーとする。

3 地域が協力してよかったと思える学校

学校運営協議会制度（コミュニティ・スクール）が始まる以前から、見附第二小学校は地域と一体となった教育活動を進めてきた。学校と地域の関係性を一層充実させ、地域と学校が共に元気になるように、以下のことに取り組んでいく。

(1) 各種団体との協働

学校運営協議会、学校支援地域本部、PTA等、学校が連携する団体が多くある。それらの団体と協働して活動を進める。

(2) 地域に貢献する教育活動

子どもが地域に支えてもらうだけでなく、地域に貢献する活動を取り入れていく。このことにより、自己有用感や郷土愛を育んでいく。

(3) 教職員一人一人が学校の顔

管理職だけでなく、地域に関わる各活動を担当する教職員一人一人が、地域との接点であり、学校の顔である。その自覚をもって地域の方と接する。

4 教職員が勤めてよかったと思える学校

「子どもの人数が少ない＝一人一人に目が行き届く」と安易に考えず、子どもを見る目を養う努力をする。「見附第二小学校に勤めて指導力がついた」と思えるように、以下のことに取り組んでいく。

(1) 研修の日常化

日々の授業を大切に。「この指導内容を子どもはどんなふう考えるだろうか」と、子ども目線で教材研究をし、準備して授業に臨む。

(2) 同僚との対話

教務室での同僚との対話を大切に。子どもや教育活動について、語り合い、考え方の違いを受け止め、そこから学ぶようにする。

(3) ワーク・ライフ・バランスの意識

仕事と生活の調和を図ることで、人生の生きがい、喜びは増す。そのためにも、教職員一人一人が自身のタイムマネジメント力を高めていく。